

## 地域銀行の CSR 動機と活動の効果

高崎経済大学 森 祐司

長野県立大学 永田 邦和

わが国の地域金融機関の CSR 活動や、地域金融機関が行う ESG 投融資については、世界的な動向や金融機関の活動状況と比較して考えると、わが国金融機関の問題認識に遅れがあったり、あまり重要視していなかったり、あるいは短期的な収益に結びつかないために、本格的に業務展開が遅れたりといった傾向があったように見られる。特に、地域金融機関の主な貸出先が ESG 投融資の中心である大企業やグローバル展開する企業ではなく、地域の中小企業であるために、メガバンクなどの対応からは遅れていると評価されても致し方なかろう。しかしながら、昨今では地域銀行自身も上場企業であり、サステナビリティ対応を求められる一方、金融機関として ESG 地域金融にも着手し、またグリーン・ローン／ボンド、サステナビリティ・リンク・ローン／ボンドへの投資、引受なども広がってきている。

本稿では、そういった昨今の動向を踏まえ、地域銀行が「企業の社会的責任 (CSR)」を果たそうとする活動 (CSR 活動) について、東洋経済新報社『CSR 企業総覧 (雇用・人材活用編)』および財務諸表等から得られる情報をもとに、そもそもどういった地域銀行が CSR 情報の開示や CSR 活動の動機とその効果について評価・検証した。

その結果、CSR 情報を開示する地域銀行の特徴としては、規模が大きく、経営状態が比較的良好で、寡占的な状況にある地域銀行ほど、CSR 情報を開示する可能性が高いということが分かった。

他方、地域銀行が CSR 活動を行う動機については、自行の業績パフォーマンスを高めるという「経営戦略動機」によって CSR 活動を活発に行っている可能性が示唆された。他方、「利他的動機仮説」については、従業員、個人顧客といった地域銀行にとって重要視されると見られるステークホルダーに関する代理変数を選び検証したが、いずれも支持される結果は得られず、逆の符号で有意となる結果が得られた。このことは地域銀行の「グリーンウォッシュ動機」を窺わせる結果となった。

以上